

平成 27 年度 丹波地域大学連携フォーラム

～これから求められる学生の地域貢献とは～

報告書

平成27年12月12日（土）10:00～18:00

いちじま丹波太郎（丹波市市島町）

前山コミュニティセンター（丹波市市島町）

篠山市民センター（篠山市）

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

はじめに

丹波地域では、現在、関西大学、関西学院大学、神戸大学の3つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取組を展開されています。また、大学での授業やゼミ活動の取組を終えた後も、自主的に地域と連携して活動を実践する学生グループも多数います。今年度は、私どもが知る範囲では、丹波県民局が実施する「大学等による地域貢献活動推進事業」に採択された8団体に加え、本庁地域振興課の事業である「大学連携による地域力向上事業」に採択された5団体の計13の学生団体が、丹波地域の各地で地域と連携した様々な活動を展開しています。このような状況を踏まえ、丹波地域で活動する大学生などが、相互の交流を通じてネットワークの形成を図るために、「これから求められる学生の地域貢献とは」をテーマに「平成27年度丹波地域大学連携フォーラム」を開催しました。

午前の部では、関西大学の「丹波の自然有機農法を学ぼう」の活動地である丹波市市島町「いちじま丹波太郎」において活動状況の報告、前山コミュニティーセンターへ移動した後、自然有機農法を通じた食の安全性に関するフリーディスカッションや地元ボランティアの方々と炊き出しを行いました。また、バスの中からではありましたが、平成26年8月に発生した豪雨災害の被災状況と復旧・復興状況を実際に見るため、被災地の一つである前山地区を巡りました。

午後の部では、学生グループからの活動報告として、「ツリーハウスの建築」、「自然有機農法により栽培した米の栽培、その米を使用した日本酒の醸造」、「地域の方と交流イベントを通じた地域ブランドの確立」、「地域資源を活用した短期滞在型観光プランの提案」、「過去の映像を活用した地域文化の復活」、「農作業ボランティア」、「山車や神輿の担ぎ手として若者が少なくなった祭りの参加」、「映像化による地域の魅力発信」といった学生ならではの視点に基づいた取組について報告していただきました。学生自身が楽しむと共に地域イベントの企画・開催など地域の方と一緒に活動を行うことで地域と良好な関係を築いていき、自分達の活動が地域に少しでも貢献したいという学生の姿勢を感じることができました。また、地元である柏原高校の発表では、丹波が抱える課題の解決には「ふるさと教育」が重要であるとの問いかけもありました。

ワークショップ形式のフリーディスカッションでは、神戸大学の清野先生、高田先生にコーディネーターをお願いし、テーマに沿った進行をしていただきました。まず、大学生、地域の方々、高校生など参加者全員が地域活動を始めた動機ごとにグループに分かれ、学生グループの活動報告から感じた“おもしろかったこと、”参考になったこと”についてグループごとに共有し、今後の活動に活かせるものとなるよう展望しました。

その後「学生が地域活動に関わる利点」について先ほどのグループを基本に学生と地域住民などに分かれて意見交換し、結果発表を行いました。学生からは「しがらみの無い自由な発想」により提案ができることや「将来のI、Jターンを考えるきっかけ」などが利点となること、地域の大人からは、「大人が不得手とする動画など新しい情報発信ツールが活用できる」といった意見などがあり、学生と地域の関わり方を相互に見直すことで、今後の活動の一助となり更なる活動の幅が広がるものと期待されます。

フォーラム開催後には懇親会も開催され、情報共有や議論の続きが賑やかに交わされ、学生たちの交流がさらに深まったことと思います。

今回のフォーラムを契機として、大学や学生たちの連携のネットワークが更に広がり、今後も地域との交流が深まることで丹波地域全体がより一層活性化していくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。

目 次

I. 開催状況の写真	1
II. 開催概要	5
III. 午前の部	9
1. いちじま丹波太郎での地域貢献活動の発表	9
2. 前山コミュニティセンターでのフリーディスカッション	11
3. 炊き出し	13
IV. 午後の部	14
1. 開会挨拶	14
2. 主催者挨拶	15
3. 学生からの地域貢献活動実施報告	16
(1) 学生団体C l o w n	16
(2) 丹波の自然有機農法を学ぼう	20
(3) 学生団体ミライの輪	28
(4) 神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミ	30
(5) 里山プロモーションチーム	39
(6) にしき恋	41
(7) サンセット 12	43
(8) 関西学院大学法学部山下ゼミ 地域づくりプロジェクト	51
(9) 県立柏原高等学校 知の探究コース	58
4. フリーディスカッション	63
5. 神戸大学と地元レストランが共同開発した試作品について	70
6. 講評	71
V. 参考資料	77
1. 当日参加者アンケート	77

2. プログラム資料	95
3. 開催チラシ	99
4. 実行委員会	101

I. 開催状況の写真

1. 午前の部

(1) いちじま丹波太郎での活動報告



関西大学教育開発支援センター 山本 敏幸 教授



自然有機農法実践者 太田 光直 氏

(2) フリーディスカッション（前山コミュニティセンター）



山本先生の講義の様子



フリーディスカッション後の発表の様子

(3) 炊き出し



炊き出しのお手伝いをいただいた「つくしの会」の皆さん



地域の方と炊き出し準備（おにぎりづくり）の様子

2. 午後の部

(1) 開会あいさつ



実行委員会会長 客野 尚志 関西学院大学 教授

(2) 主催者あいさつ



酒井 芳朗 丹波県民局 副局長

(3) 学生団体の活動報告



学生団体Clown (立命館大学)



丹波の自然有機農法を学ぼう (関西大学)



ミライの輪 (神戸親和女子大学)



神戸山手大学 歴史・文化ツーリズムゼミ



里山プロモーションチーム（京都大学）



にしき恋（神戸大学）



サンセット12（神戸大学）



関西学院大学法学部山下ゼミ 地域づくりプロジェクト



県立柏原高等学校 知の探究コース



学生団体の活動報告を聞く来場者の皆さん

(4) フリーディスカッション



清野 未恵子 神戸大学大学院人間発達学研究所 特命助教

(フリーディスカッション コーディネーター)



高田 晋史 神戸大学篠山フィールドステーション 学術研究員

(フリーディスカッション コーディネーター)



フリーディスカッションの様子



フリーディスカッションの様子



フリーディスカッションの様子



フリーディスカッションの様子

Ⅱ. 開催概要

丹波地域では、様々な大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

これらの学生が参加するフォーラムを下記のとおり開催し、それぞれの活動内容について相互に理解を深めるとともに、参加者全員で意見交換し、活動継続の方向性について展望しました。

記

- 1 日 時：平成 27 年 12 月 12 日（土）10:00～18:00
- 2 場 所：いちじま丹波太郎（丹波市市島町）
前山コミュニティーセンター（丹波市市島町上竹田）
篠山市民センター（篠山市黒岡）
- 3 テーマ：「これから求められる学生の地域貢献とは」
- 4 参加者数：126 名（大学生、地元高校生、大学教官、地域住民 他）

大学生（関学大、神戸大、関西大、京都大、立命館大） 神戸親和女子大、神戸山手大	63 人
高校生（柏原高、篠山鳳鳴高、氷上高）	15 人
大学教官	8 人
高校教員	4 人
丹波地域の住民の方	20 人
県、市等行政職員	16 人
計	126 人

5 内 容：

(1) 午前の部

ア 10:00～12:00 地域貢献活動報告①（会場：いちじま丹波太郎、前山コミュニティーセンター）

- ・講師：関西大学教育開発支援センター 山本敏幸 教授、太田 光宜 氏
- ・「丹波の自然有機農法を学ぼう」の活動報告
- ・「誰もが信じているその常識を疑え」をテーマに参加者で食の安全性に関するフリーディスカッション

イ 10:15～11:00 炊き出し訓練（会場：前山コミュニティーセンター）

- ・地元ボランティア団体「つくしの会」の皆さんと学生有志による炊き出しの準備

ウ 10:45～11:00 平成 26 年 8 月豪雨災害現場の見学（車窓見学）

- ・いちじま丹波太郎から前山コミュニティーセンターへの移動中、車内から豪雨災害復興現場を見学

エ 12:00～12:45 昼食（会場：前山コミュニティーセンター）

- ・「つくしの会」の皆さんと学生有志の皆さんが作った炊き出し（豚汁とおにぎり）

(2) 午後の部（会場：篠山市民センター）

ア 14:00～15:15 地域貢献活動報告②

- ・学生からの活動報告（学生団体 Clown、丹波の自然有機農法を学ぼう、ミライの輪、神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミ、里山プロモーションチーム、にしき恋、サンセット12、関西学院大学法学部山下ゼミ 地域づくりプロジェクト、県立柏原高等学校 知の探究コース）

イ 15:25～18:00 フリーディスカッション

- コーディネーター：神戸大学大学院人間発達学研究科 清野 未恵子 特命助教
神戸大学篠山フィールドステーション 高田 晋史 学術研究員

- ・参加者全員による意見交換、ワークショップ

6 主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

7 事務局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

8 結果概要：

《活動報告1》 学生団体 Clown

丹波市の悠遊の森を拠点とし、子供たちにツリーハウスを通して自然と触れ合い、自然の大切さを知ってもらうこと、建築の専門的学問を活かして学びの場としたいということ、ツリーハウスのある地域と交流することという3つのコンセプトを軸に「ツリーハウスから始まるつながりの輪」を理念として掲げて活動している。これまで、3月のツリーハウス完成イベントや8月のサマーフェスティバルにあわせて地域の方や子供たちと交流を行った。今後はツリーハウスの一部に使用している竹の交換を通じ丹波市と継続して関わっていきたいと考えている。丹波のみならず滋賀にもツリーハウスを建て、活動の場を広げている。

《活動報告2》 丹波の自然有機農法を学ぼう

丹波市市島町で自然有機農法により育てたお米と丹波の水を使った伝統的手法による日本酒づくりへの参加と、丹波の地域の方と信頼関係を築き、長年培った丹波の農作の知恵を共有することを目的としている。残留農薬が健康に及ぼす影響から有機栽培作物の価値を伝えることと、醸造した日本酒を第6次産業として発展・展開することについて考えている。留学生の参加者が多く、日本文化への理解と併せて国際的な視点からの提案が期待されることがユニークである。

丹波市氷上町では、「学生の成長の場」、「外国人向けのゲストハウス」、「社会人向けのサードプレイス」を目的に古民家のリノベーションを行なっている。また、畑で栽培した大根を使用したお菓子を作り商品化への取組みも行なっている。

《活動報告3》 学生団体ミライの輪

丹波市山南町久下地区を活動地域として、久下地区の魅力を広く知ってもらうこと、新しい地域ブランドを作ることを目的に活動している。11月には地域の子供や若い世代から高齢者まで交流、楽しめるイベントとして「久下カフェ」を開催し地域に対する思いをヒアリングした。これからは、地域の方が作っている「押し寿司」を新しい地域ブランドにするため取り組んでいこうと考えている。

《活動報告4》 神戸山手大学歴史文化ツーリズムゼミ

重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けた篠山市福住地区で、移住を視野にした福住らしい滞在型観光の提案を目的に活動している。地域課題である獣害対策を兼ねた鹿肉の利活用のためジビエ料理を企画したが、他地域との差異化が難しいことから、福住で採れた新鮮で美味しい食材を組み合わせ、短期滞在を複数回組み合わせることで完成する滞在型の農業観光プランを提案中である。

《活動報告5》 里山プロモーションチーム

篠山市桑原集落において地域の魅力を発見し、そこで感じたものを映像として記録するだけでなく映像を使った地域の伝統文化の保存と伝統食の復活に向けたプロジェクトを行なっている。今では歌われなくなった地域の祭りの歌のまわし節を25年前の祭りの映像を活用し復活に向けた取組みや、野草の天ぷらなど地区内を流れる川の護岸工事により失われた伝統食の復活に向けた取組みなど魅力の再発見、共有といったプロセスを通じて地域への愛着や関心等の向上を図りたいと考えている。

《活動報告6》 にしき恋

篠山市西紀南地区において、「農業ボランティア」、「丹波黒大豆やお米を栽培して収穫物を販売」、「地域イベントの参加や企画」を行なっている。毎週末に学生が地域を訪れ農作業のお手伝いを行っており、また団体自身でも遊休農地を借り名産品の丹波黒大豆を栽培、販売まで行い、農作業の省力化や低コスト化に向けた試み、提案を行なっている。地域の祭りへの参加や小学生との活動などを通じ、お世話になっている地域との交流を深めている。

《活動報告7》 サンセット12

大学の授業を通じて知り合った篠山市日置地区の祭りに参加している。8月は波々伯部祭りでは山車を引き、10月は日置祭りでは味祭りの手伝い、神輿を担いで祭りに参加した。これまで篠山に来たことのない人が祭りの参加を通じ篠山について知り、来年も参加したいと言ってもらえたこと、今年の祭りで多数の学生の参加がきっかけになり地域の人の参加が増えたことや昨年より地域の方々との交流が深まったことが成果として報告された。

《活動報告8》 関西学院大学法学部山下ゼミ 地域づくりプロジェクト

「子供班」と「動画班」の2班が活動している。「子供班」は柏原での「子育て環境の改善」と「子育て世代のまちづくりへの関心を高める」ことを目的に活動している。子育て世代とのワークショップやイベントにあわせて開設した子供たちの遊び場にきた来場者から子育て環境について意見を聞いたところ、「小児医療の充実」、「コミュニティ施設での託児支援があればいい」との要望が明らかとなった。

「動画班」は学生自身が感じた丹波の魅力を不特定多数の方にも知っていただくため、丹波にIターン、Jターンした方に丹波の魅力についてインタビューしたり丹波のすばらしい景色を撮影したプロモーションビデオを作成した。完成後はFacebookやYou tubeなど動画をアップロードして拡散していく予定である。

《活動報告9》 県立柏原高等学校 知の探究コース

柏原高校の地域活性化を目指した取組みとグローバルな展開、可能性について発表された。丹波市には世界に誇れる伝統的農業システムの維持や芸能文化の維持をはじめとする伝統農業文化が残っていることや、丹波竜の化石が発見された丹波篠山層群などがあり、広く発信しようとしている。丹波市が抱える多くの課題の解決には故郷と触れ合う機会の充実、考える力、主体的、創造的に生き抜く力を養う「ふるさと教育」が大切との問いかけがあった。

《フリーディスカッション》

コーディネーター 神戸大学大学院人間発達学研究科 清野 未恵子 特命助教

神戸大学篠山フィールドステーション 高田 晋史 学術研究員

「これから求められる学生の地域貢献とは」をテーマにワークショップを行い、結果発表を行った。

まず、他の学生団体の活動報告から各団体活動で「おもしろかったこと」、「参考になったこと」を各自記録した。フリーディスカッションにあたり、地域貢献活動を始めた動機ごとに班を編成し、各班で「おもしろかったこと」、「参考になったこと」を共有した。

その後、「学生が地域活動に関わる利点」について学生、大人それぞれの立場から考察した。

学生の利点として、「先入観がないため、柔軟な考えや提案ができる」、「将来のI、Jターンを考えるきっかけ」といった意見があり、地域の大人からは「自分の息子が聴かない昔話を若い人が聴いてくれる」、「情報発信の際、新しい発信源（Facebook、Youtubeなど）を提供してくれる」と考えていることに加え、「地元高校生は地域の将来

を真面目に考えていることが印象的であった」と意見があった。

講評では、「留学生のように違う価値観、違う文化を持った人が集まると、いくら1,000人で話し合っても出てこないような意見が出てくるのが大きい」、「地域は行き詰まり感の打開への期待から学生を受け入れている。アイデアやパワーを活かして解決に向けて取り組んで」「いろんな活動を通して地域の魅力を再発見・再発信して行って、そこにいろんな若い人が集う」、「若い力こそが労働力だ」、「大学生の皆さんが唯々楽しいと思って活動することが、地域のためにもなっている」といったコメントが寄せられた。